

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-58	実施計画番号	72	事業開始年度	平成23年度
事務事業名	こころの健康づくり事業			事業終了年度	
担当課名	健康増進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	自殺対策基本法・精神保健福祉法	関連事務事業			
背景や経緯等	自殺対策基本法において、地方公共団体の責務が明記されているとともに、国民の責務についても言及している。市民ひとりひとりが自殺予防として、こころの健康づくりに取り組めるように継続して実施する。				
事務事業の目的	自殺対策の充実を図るため、傾聴活動の質の向上を目指した人材の育成および活動支援を行う。				
実施状況	これまで行ってきた傾聴ボランティア養成講座に加えて、ゲートキーパー養成講座を事業委託等の方法で今年度から開始した。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	1.5
	活動日数(日)	80	80	80
	人件費(千円)	5,760	5,760	4,320
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
臨時職員	人件費(千円)	65	65	65

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	1,232	481	481

【指標】

活動指標	活動指標名①	壮年期対象ゲートキーパー養成講座開催回数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		回		1回(5回講座)	1回(5回講座)
	活動指標名②				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①	ゲートキーパー養成講座受講者数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値		240	240
		実績値		300	
		達成度(%)		125%	
	成果指標名②	自殺死亡率の減少(人口10万対)			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	目標値	36.0	36.0	36.0	
	実績値				
	達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ころの健康づくりを推進していく上で、ゲートキーパーの養成は、自殺対策として重要であり推進していく必要がある。受診困難なハイリスク者への対応は、関係機関と協力しながら行政が担っていく。また、ボランティア団体による傾聴サロン開設は、市民の相談の場になっている。 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	ころの健康づくりを推進していく上で、ゲートキーパーの養成は、自殺対策として重要であり推進していく必要がある。受診困難なハイリスク者への対応は、関係機関と協力しながら行政が担っていく。また、ボランティア団体による傾聴サロン開設は、市民の相談の場になっている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
ころの健康づくりを推進していく上で、ゲートキーパーの養成は、自殺対策として重要であり推進していく必要がある。受診困難なハイリスク者への対応は、関係機関と協力しながら行政が担っていく。また、ボランティア団体による傾聴サロン開設は、市民の相談の場になっている。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 成果指標の自殺死亡率は経年的にみると、改善傾向にある。委託事業である壮年期対象ゲートキーパー養成講座については、予想を上回る参加者数だった。壮年期の参加者数を維持していくために、周知対象の検討をしていく。ゲートキーパー養成講座の対象者や内容が市民にわかりにくかったため、今後は対象者が参加しやすいように、開催回数や対象について検討をしていく。 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	成果指標の自殺死亡率は経年的にみると、改善傾向にある。委託事業である壮年期対象ゲートキーパー養成講座については、予想を上回る参加者数だった。壮年期の参加者数を維持していくために、周知対象の検討をしていく。ゲートキーパー養成講座の対象者や内容が市民にわかりにくかったため、今後は対象者が参加しやすいように、開催回数や対象について検討をしていく。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	成果指標の自殺死亡率は経年的にみると、改善傾向にある。委託事業である壮年期対象ゲートキーパー養成講座については、予想を上回る参加者数だった。壮年期の参加者数を維持していくために、周知対象の検討をしていく。ゲートキーパー養成講座の対象者や内容が市民にわかりにくかったため、今後は対象者が参加しやすいように、開催回数や対象について検討をしていく。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 青森県自殺対策強化事業として4分の3補助で実施した。次年度も補助金を活用し、委託事業として実施予定である。こころの相談事業(アウトリーチ事業)としては、十和田市立中央病院の協力を得て実施しており、ハイリスク者への対応として次年度も計画していく。 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	青森県自殺対策強化事業として4分の3補助で実施した。次年度も補助金を活用し、委託事業として実施予定である。こころの相談事業(アウトリーチ事業)としては、十和田市立中央病院の協力を得て実施しており、ハイリスク者への対応として次年度も計画していく。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	青森県自殺対策強化事業として4分の3補助で実施した。次年度も補助金を活用し、委託事業として実施予定である。こころの相談事業(アウトリーチ事業)としては、十和田市立中央病院の協力を得て実施しており、ハイリスク者への対応として次年度も計画していく。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 広報等により公平に周知している。 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	広報等により公平に周知している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
広報等により公平に周知している。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

①ゲートキーパーの養成は、開催回数や対象を検討の上継続実施する。②医師・精神保健福祉士・保健師等による訪問(アウトリーチ)支援の継続。③傾聴ボランティアが順調に進むように支援を継続。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

より多くの市民が参加できるように、実施回数の検討や周知方法の工夫を行い、ゲートキーパー養成講座等を実施する。悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげる役割のゲートキーパーが増えることにより、相談しやすい環境づくりにつなげる。